木を見て森を見ず：システムズシンキングとは？

まずシステムとは、お互いに影響を与えるパーツ、部品、歯車が集まって、それらの集めりを一つの集合体、システムと呼ぶわけです。

そして、システムズシンキングとは、単体のパーツだけを見て物事の判断をするのでは無くて、システム全体、その集合体に対して、パーツがどう影響を与えるかと言う事を考えると言う意味です。

例えば、蜂。蜂に刺された事がある人や蜂と言う単体の種が全体と言うシステムに対してどう影響を与えるのか？とシステムズシンキングが出来ていない人は、「蜂なんて居なくなれば良い」と言うかもしれません。

しかし、蜂がこの世から居なくなると、今まで蜂によって運ばれていた花粉が植物に届かなくなり、種子を残せず、植物が育たなくなりと、蜂と言う単体の種が生態系と言う生物が集まったシステムに大きな影響を及ぼしてしまうのです。

ビジネスでも同様です。「まぁ、大した影響無いだろ」と思って、商品サービスのマーケティングのメッセージを変えたり、社内のルールを変更する事で、人と言う歯車が集まった、会社と言う一つのシステム、集合体に大きな影響を与え兼ねないのです。

システムシンキングが出来ている人なら、会社の社員全員に対してパーツの変化や追加、削除の事を知らせて、「悪影響が出ていないか？」と言うように、見張るように促すでしょう。

システムズシンキングが大事だからこそ、全体を見る力、俯瞰する能力などが人材が持つべきスキルとして述べられる事があるわけですから、マネジメントの立場に居ない平社員や就活生のあなたも、システムズシンキングを今のうちに鍛えておいたら良いかもしれません。

木を見て森を見ず。

鷹となり、時として、木に止まり、大空から森を俯瞰して見下し、木と森の両方を見る事が出来る、そんな鷹の目を持てるようになると、あなたの決断判断の質が上がるかもしれません。